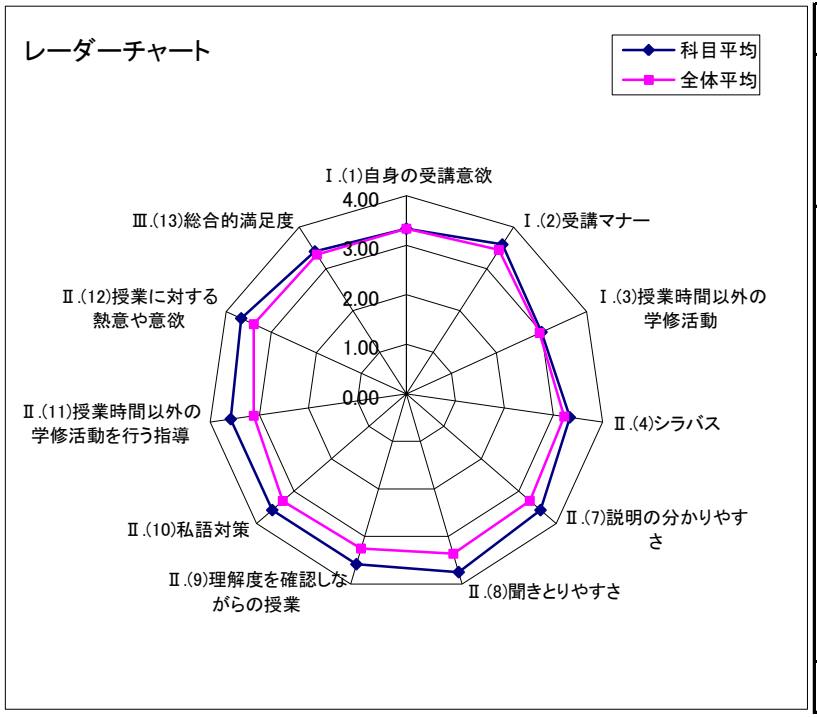
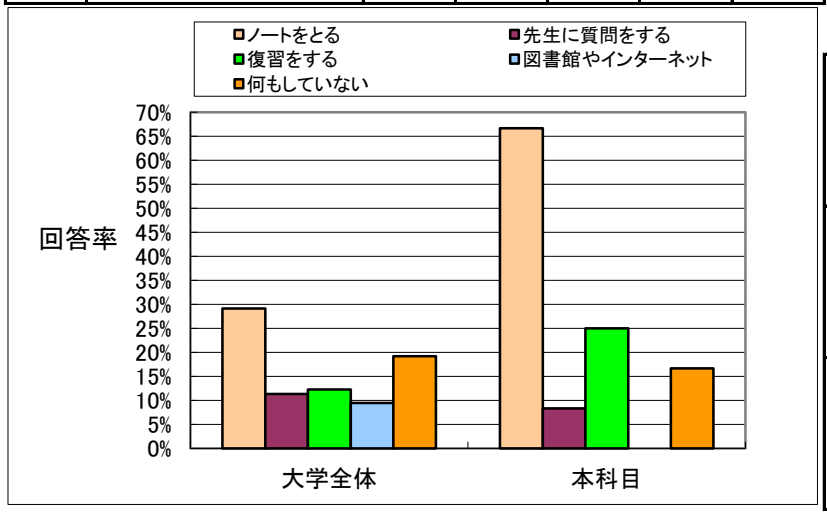
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.33	3.33
	Ⅰ.(2)	3.58	3.45
	Ⅰ.(3)	3.00	2.96
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.33	3.22
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.58	3.30
	Ⅱ.(8)	3.75	3.36
	Ⅱ.(9)	3.58	3.25
	Ⅱ.(10)	3.58	3.30
	Ⅱ.(11)	3.58	3.11
	Ⅱ.(12)	3.67	3.39
総合評価	Ⅲ.(13)	3.42	3.34

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

<※複数選択可項目>		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(14)	授業を理解するための工夫	66.7%	8.3%	25.0%	0.0%	16.7%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.31	3.25
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(12)	3.58	3.28
総合評価 Ⅲ.(13)	3.42	3.34

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度　後期
時間割番号	1435
科目名	マクロ経済学Ⅱ／マクロ経済学
教員名	

①授業計画の達成度について

授業の前半部分では全く用いられない、数学的操作の習熟を必要とする経済成長論の説明が不十分になった以外、授業計画は、おおむね達成された。

②授業の進め方について

マクロ経済学Ⅰ（マクロ経済学＜前期＞）では、レジュメを用いて行ったが、マクロ経済学Ⅱ（マクロ経済学＜後期＞）では、マクロ経済学Ⅰ（マクロ経済学＜後期＞）の授業の復習もかねて、板書中心で行った。ランダムにではあったが授業内容と関連する話題で受講生とコミュニケーションも図った。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

マクロ経済学は経済学の基礎理論の一つという科目特有の性質から、価値中立・無味乾燥なモデルの羅列になりがちかもしれない。授業ではマクロ経済学を使うことで現実の経済の見方がどのように整理されるかという話も適当な場面で繰り返した。受講生にとっては、新しい理論を学ぶだけで精いっぱいということもあっただろうが、多少は関心を高めてもらえたのではないかと考える。この科目の自習について、図書館やインターネットで調べる学生が皆無だったのは適切な課題を与えていなかったことも原因であろう。メディアが多様化している現状を踏まえ、この点の授業改善を是非試みたい。

奈良産業大学